

# 御所湖随想

H23年2月 No.16

## 公園の雪景色

一月の雫石町は、久々に寒い冬を迎えました。気温が - 10 以下に下がると、周りの木々は霜で白いペールを被ったようになります。吐く息は当然白くなるのですが、吸いこんだ空気の冷たさに一瞬躊躇してしまいます。今年の一月はこんな日が14日もありました。湛水面積が640haもある御所湖ですが、1月17日には全面が結氷し、一面の銀盤となっております。



数年前までは御所湖の一面に多くの白鳥が飛来し冬の風物詩でもあったパンくずなどをやっている微笑ましい光景も見られたのですが、今では鳥インフルエンザの問題があり、



ほとんど見られなくなってしまいました。左の写真は今年の様子です。羽の色がやや黒っぽいのが幼鳥です。春にはシベリアへと旅立ちます。野生動物との接し方については、慎重に行うことが大切です。野鳥に近づきすぎないことや靴で糞を踏まないよう十分に注意して下さい。

さて、2月も半ばを過ぎますと、ようやく寒さも和らぎ、といってもまだ - 10 近くまで下がるのですが、湖岸の斜面の雪も消え始め、枯れ草や落ち葉が所々で顔を出してきました。屋根に乗っていた雪も日中の暖かさで緩み、時折ド、ド、ドーと音を立てて落ちてきます。管理事務所から外を眺めていると、ヤマドリが2羽、雪が消えた斜面で何かを啄んでいます。また、キツツキのドラミングも聞こえてきました。春近し……！

## 追伸

今年から『御所湖随想』は、鈴木に替わり軍司が担当することになりました。御所湖周辺にはまだまだ紹介したいものがたくさんあります。また、気づいていないものもさらにありそうです。『御所湖随想』は、皆さんと一緒に作り上げたいと考えておりますので、御所湖での発見や体験、感想など何でも結構ですので、私にそっと教えて下さい。

いわて雪まつりと花火

